

設問

次の文章を読み、この文章において筆者が主張していることを二〇〇字程度に要約しなさい。次に、この問題について自らの考えを論述しなさい。全体の字数は八〇〇字以内とします。

(社説) 科学五輪 世界に挑む若者支援を

来月、日本で二つの科学オリンピックが開かれる。世界に挑む若者を応援したい。

草分けの数学が一九五九年に始まり、日本は九〇年に初参加した。いまや日本科学オリンピック委員会には、数学、化学、生物学、物理、情報、地学、地理の七科目が加わる。哲学や言語学などの国際大会もある。

二〇二二年の七科目の予選参加者は計一万八千人を超えた。予選は試験やリポート審査などの一次選考、全国大会でもある二次選考での試験や実技で数人の代表が決まり、強化合宿などを経て、国際大会に臨む。

今年は、国際科学オリンピックが千葉県で、日本で初開催となる国際物理オリンピックが東京都で、七月に開かれる。ポーランドでの国際天文学・天体物理学オリンピック、ギリシャでの国際経済オリンピックには、日本から初出場となる。

金銀銅メダルは、上位から一定の割合で全体の半数ほどに贈られる。日本の出場者のほとんどが獲得している。中には予想しなかった解き方で出題者を驚かす生徒もいる。近年は、中国や韓国などアジアの活躍が目立つという。国内のトレーニングに力を入れている国もある。

国際大会では、宿舎で議論したり、開催国の伝統文化に触れたり、観光やスポーツ、ゲームなどで交流を深める。予選も含めた大会の意義は、授業や受験勉強にとどまらず、興味ある教科を存分に学び、夢中になって探究すること。選考や合宿、大会で仲間と出会って刺激し合い、視野が広がり、やがて留学や国際共同研究にもつながる。

突出した若者の力が伸びれば波及効果もある。世界に目を向ければ、既成の枠にとらわれない若い才能が、技術革新や巨大ビジネスにつながる発想を生み出し、社会にも貢献してきた。

日本代表は、出場経験を蓄積した都市部の進学校が多いが、地方や公立高校からも選ばれるようになってきた。情報がネットで得られ、交流が広がったことが背景のようだ。

予選参加者のうち、女性は、生物学で半数を超え、地学や化学、地理では三割前後だ。

地域や学校、性差を問わず、挑戦したい高校生が参加できる環境を整えることが大切だ。選抜や大会運営には国の補助や企業の寄付もあるが、高校や大学の先生、学生らのボランティアにも頼る。自治体や学校の熱心さには濃淡もある。国や企業は支援を拡大してほしい。

スポーツのように観戦することは単純にはできないが、もっと社会の関心を高める工夫も必要だ。どの分野でも、世界を目指す高校生存在は、同世代への刺激にもなるはずだ。